

八王子探訪

細田木材工業株式会社
顧問 細田 安治

最近歳のせいかな、NHKの「プラタモリ」に凝りだし、今月号は八王子を報告します。ご寛容を。

東京都八王子市は人口58万・山手線もすっぽり入る大きさを誇るデッカイ町だ。1917年(大正6)の誕生時は小さかった八王子がどう大きくなったのか?その秘密を解き明かす!

◇八王子は家康がつくった宿場町であり軍事拠点だった

八王子城は小田原の北条氏が治めていたが豊臣秀吉の軍勢によって落城したのは、1590年(天正18)6月のこと。城主北條氏照も切腹、北条氏は滅亡した。八王子の町は荒果てていた。

滅亡した北条氏に代って関東の領主として徳川家康が江戸にはいった。

八王子は江戸の西に位置し、武田氏の旧領、甲府に通じる甲州街道のほか、川越街道や鎌倉街道が走る八王子は、江戸の西の守り口として重要な場所と考えられ、新たなまちづくりがはじまった。家康から八王子のまちづくりを任されたのが、大久保長安というこの稿の主人公たる人物である。

◇大久保長安によるまちづくり

○甲州街道の整備と新城下町づくり

八王子城の城下町は東に移されることになった。甲州街道を整備し、その両側に横山、八日市、八幡の三つの宿を移し、新しい「八王子」の町となった。八王子を離れていた人たちも新しい町に戻ってきた。

「八王子」と呼ばれていた八王子城の城下町は後に「元八王子」と呼ばれるようになった。

○主要街道はクランク形

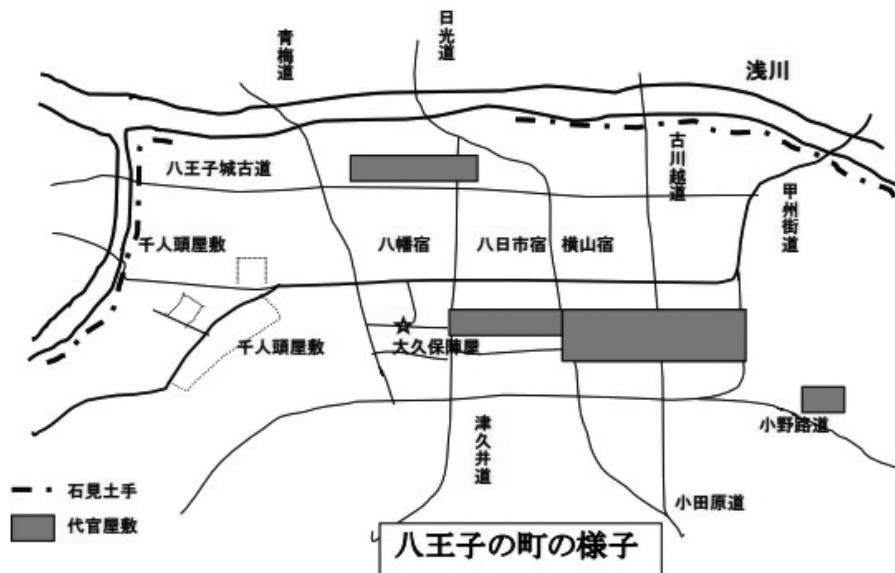
大久保長安は八王子繁栄のため、町にふたつの街道のクランクを設け、町中を歩き歩かせる形にし(町を通り過ぎないようにした)、そこに市を作った。旅人は直線で行くより時間はかかるが、町の魅力を知ることでもでき町も繁栄する。

クランクと言えば、戦国時代のお城は、山の上であり四方を見渡す物見櫓がある。お城へ上がる道は坂道がキツイこともあるが、ほとんどクランク形に造られ、敵が一気に攻めあがれないような造りになっている。敵もそうだが味方も一気に上がるのはきつく、クランクの道に沿って登っていく。

オットここのうかつにも気が付いた。何故今まで気づかなかったのか、道路も鉄道路線も急な坂は上り下りともクランクになっている。



大久保長安



八王子の街の様子と主要街道がクランクになっている

力を伝えるクランクシャフトもしかりだ。卑近な例でいえばセルモーターなどない昔の自動車の起動はエンジンを起動させるにはクランクシャフトを回したことを思い出した。もっと遡れば、オート三輪の起動は踏み込み式で、ケッチンと称する強い反動が怖く、びくびくしながら踏み込んだことを思い出した。昭和30年代～40年代初めにかけての話である。閑話休題、クランクを人寄せに使った大久保長安という人物は底知れない知恵者ではないか……

○長安の陣屋・八王子同心・一里塚

小門宿(現在の小門町)には長安の陣屋が設けられ、関東十八代官とともに、八王子だけでなく関東の統治を行った。牢屋もあり、警察の役割も果たした。産千代稲荷神社がその跡地と言われている。

江戸の守り口として、旧武田家家臣らを中心とした武士集団を組織、警備にあたらせた。

八王子千人同心のはじまりである。現在の千人町には彼らの屋敷が立ち並んだ。江戸時代、交通網が整備され、主要な街道には一里塚が設けられた。甲州街道の一里塚のうち、八王子には新町の竹の花などに設けられ、新町の竹の花公園に市指定史跡として、竹の鼻一里塚跡が残っている。



一里塚



同心千人町跡

○暴れ川浅川の治水・信玄堤を築く

また、度々氾濫して大きな被害を出していた暴れ川の浅川には治水対策として信玄譲りの信玄堤防を築いた。千人町・日吉町から新町の辺りまで続く大規模なものである。



暴れ川



信玄堤

○大久保長安の人物像

1545年(天文14)生まれ、武田氏の猿楽師の次男と言われている。もともと武士の身分ではなかったが、武田信玄によって武士に取り立てられ、租税や食糧など主に民政を担当していた。

武田家が滅亡後、その才能を認められて徳川家康の家臣となる。1590年(天正18)に家康が関東へ国替となった時、長安も家康に従い八王子に入って小門に陣屋を設け、代官頭として他の代官とともに関東の統治や、八王子などの町の整備・支配をした。その後も、財政や交通など活躍は多方面に渡り、特に石見銀山(現在の島根県)、伊豆金山(現在の静岡県)の奉行、佐渡(現在の新潟県)の代官として、各地の金銀山の増産に成果を挙げ、その才能を発揮した。長安は1613年(慶長18)4月25日、駿府(現在の静岡県)でその生涯を閉じた。

○不正の疑いで悲劇

長安の死後、徳川家康に生前の不正の疑いをかけられ、財産は没収、残された男子7人も死罪となってしまう。家康の疑いが真実だったか不明なるも、長安の優れた才能、全国各地の鉱山開発などで蓄くわえた多くの財産、キリシタンとの接近が家康の疑念を生み、また恐れさせたという説もある。なんと気の毒な生涯ではないか? 歴代の偉大な将軍の比較でよく出てくるホトトギスに例えた言葉では、織田信長は「鳴かずば殺してしまえ」、豊臣秀吉の「鳴かずば鳴かせてみよう」、徳川家康は「鳴かずば鳴く迄待とう」深慮遠謀を伺い知るが、大久保長安の一件は、家康らしからぬものとしか思えぬ。と思考しますが読者のご意見は如何でございましょうか……

◇消防車メーカーの工場

八王子は関東山地と武蔵野台地の境に位置し、耕作地が少なかったため、養蚕や機(はた)織は、古くから農家の大切な仕事であることから繊維産業が勃興した。立地的に八王子は繊維産業が盛んな土地柄であった。

日本機械工業(消防車メーカー)は神奈川県鶴見で操業していたが、片倉製糸工業八王子工場の建物

を居ぬきで引き受け消防車の製造を開始したのが始まりだ。一時期は製紙と消防ポンプの両方やっていたこともあるとのことである。



製糸工場を居ぬきの消防車メーカーの工場

◇学園都市八王子

八王子市には、21の大学等(大学・短期大学・高専)があり、約10万人の学生が学ぶ全国でも有数の学園都市でこの恵まれた環境のもと、大学・企業・市民との連携・協働による「学園都市づくり」を進めている。

具体的には、大学の専門知識を産学共同研究などに活かし、文化や産業の振興を図る。

学生の地域活動への参加を求め、その活力と行動力をまちづくりに活かすことを目指している。

また、2009年(平成21)4月より、学園都市づくりをより効果的に行うために、人材、資産、資金を集中させ、オール八王子で各団体や事業の連携を図る各団体の連合組織「大学コンソーシアム八王子」が設立された。

八王子市に最後に合併した由木村だったエリアは、丘陵地が大半のため、宅地開発にはうってつけであり、人口が6千人から11万人に躍進し八王子の更なる拡大の原動力となった。ここだけでなく最適な丘陵地が数多く宅地開発が進んだ。さらに、市全体で21の大学があり、この由木村エリアに大学が7つできた。

続く